

原発デモ 逮捕に揺れる

警察「制止に従わぬ」参加者は懸念

「原発や震災がれき焼却反対を呼びかけるデモや集会などからみ、市民が逮捕される事態が相次いでいる。捜査当局は制止や警告などに従わない行動を問題視するが、公の場で自由にものを言う空気が奪われてしまつと懸念が広がる。

阪南大の地下真樹准教授(40)が大阪市内の自宅で、威力業務妨害容疑などで逮捕されたのは昨年12月9日のことだった。

容疑は、同年10月17日午後、JR大阪駅構内で通行人にビラを配りながらハン

ドマイクなどで演説したり、制止しようとする職員

十数人を押しつけたりして「がれき反対」などと訴えながらデモ行進し、業務を妨

げたなどというもの。一緒にいた2人も逮捕された。

府警によると、参加者約

40人がJR西敷地内の広場で演説集会やビラ配りを始めたのは同日午後2時43分ごろ。約20分後、駅コンコースをデモ行進し、午後4時12分ごろに南側出口から敷地外に出たという。

府警は、地下准教授らがコンコースに入るのを制止しようとする職員に「通せ」などと発言して振り切ったことや、拡声機などを持っていたことから演説やデモを主導したと判断。参加者のうち駅員の足を踏む

などした1人を含めた3人を共同正犯ととらえた。JR西も被害届を出した。

これに対し、地下准教授は真つ向から反論する。

約20日間の勾留後、処分保留で釈放された地下准教授はこう話した。「僕は駅の敷地外の歩道でアピール

してただけで、当日はビラをまいていない。コンコースを通る際も集団から数十センチ離れた最後尾で歩いていただけ。いずれも駅員の制止は受けていない」

逮捕された3人のうち無

憲法学者ら危機感

東京都で一昨年9月、脱原発を訴えるデモで12人が逮捕され、全員が処分保留のまま釈放されたのを始め、各地で逮捕者が相次ぐ。

大阪では昨年10月5日の関西電力本店前での抗議行動で公務執行妨害容疑などで男性が逮捕され、その後の3カ月間に延べ9人が逮捕され、6人が起訴された。

こうした動きに、憲法学者らは「憲法で保障された表現の自由を侵害している」と危機感を募らせる。

信州大の成沢孝人教授は「権力側の、自分と考え方の違う人間は弾圧する」という強い意思を感じる。龍谷大法科大学院の石崎学教授は「この程度の微罪で逮

職男性(63)も釈放されたが、韓基大被告(46)は起訴された。副駅長に「(ビラまきへの)警告をやめさせろ」などと大声を出し、足を踏んだことが威力業務妨害罪にあたりとされた。

捕令状を出したり、勾留延長を認めたりする裁判所は、司法のチェック機能を果たしていない」と話す。

東京で毎週金曜夜に行われている反原発の官邸前デモでは、昨年7月から弁護士有志が抗議行動の主権者と連携し、逮捕者支援などに取り組む。河崎健一郎弁

護士は「ベビーカーを押しつけてデモに参加するような市民を、『参加すればいつか自分も逮捕されるのではないか』と萎縮させてしまふ」と話した。

「反原発運動などからむ」最近の主な逮捕事例

- 2012年9月20日 福井県おおい町の大飯原発での再稼働阻止行動。1人(起訴)
- 10月5日 大阪市北区の関西電力本店前抗議行動。1人(起訴)
- 11月13日 大阪市此花区民ホールでの市のがれき説明会。4人(3人起訴、1人は処分保留で釈放)
- 11月16日 関電前抗議行動。1人(起訴)
- 12月9日 大阪市北区のJR大阪駅付近での街頭活動。2人(処分保留で釈放)
- 12月11日 JR大阪駅付近での街頭活動。1人(起訴)